死大・狂気準備衆合祭！

◎企画・演出⇒あくびパルチザン　◎出演⇒文学部連日団交要求団

渡瀬＝森川＝直木ファシズム体制を弔う歌　涙なくして歌えぬ歌の数々

その1．居直りのタンゴ（黒ネコのタンゴ替歌）

1．君はかわいい　ボクの枝動隊
青いヘルメット　よく似合うよ
だから　いつでもゲバ学生
ボクのために　やっつけて
居直りのタンゴ　タンゴ　タンゴ
ボクの恋人は　マルキなの
居直りのタンゴ　タンゴ　タンゴ
ネコの目のように気まぐれよ

2．すてきな学長　マルキを呼べば
ワルイ坂田が　ほほえんでる
正常化大学に　いかれちゃって
あとで泣いても　知らないよ
}の部分　くり返し

3．大学のあかりが　みんな消えても
君のケイビは　天の助け
キラキラ光る　番犬の目
大学全部　君のものさ
}の部分　くり返し
キラキラ光る　番犬の目
大学全部　君のものさ
居直りのタンゴ　タンゴ　タンゴ
だから　いつも浮かれちゃって
改革なんて　知らないよ　ラララララ・・・

その2．マルキ節（スーダラ節替歌）

チョイと一回のつもりで入れて
いつのまにやら不感症
気がつきゃ市大は　枝動隊の学校
これじゃ　理性にいいわきゃないよ
わかっちゃいるけど　やめられねェ　あホレ
スイ　スイ　スーダラ　ダッタ・・・

その3．いいじゃないの「正常化」ならば（いいじゃないの幸せならば替歌）

あの朝　マルキが導入されて
それから　授業が強行された
変な気分だと　人は言うけれど
いいじゃないの　授業があれば

注　尾青諸君　愛唱歌集より引用

その4．理不尽だわ（イムジン河替歌）

理不尽だわ　居直って
どうどうと　歩く
改革のお話しは　どこかへ飛んでった
我が死大　話し合い　夢か　幻か
理不尽だわ　居直って
どうどうと　歩く

その5．信頼ドロボー（恋ドロボー替歌）

最初は敵だと　思わなかった
一度だけ団交を　要求したけど
拒否されて　二度が三度に　度重なって
不信をもったの　教授会に

その6．改革は知らない（戦争は知らない替歌）

1．改革問題　何も知らない
だけど教授のイスが好き
両手にいっぱい　权威をもてば
なぜか　ほほえみ　うかんでくるの

2．紛争なんか　何にも知らない
だけども私にゃ　行くとこがない
研究室思えば　ああ古本の山に
なぜか　みれんが　みれんが残る

3．入って下さい　頼もしい　マルキ
火炎ビン飛ぶ　垓の下
団交もせずに　紛争終えて
改革問題　ほっかぶり

その7．教師の心に（あなたの心に替歌）

教師の心に　実（ジツ）があるなら
そして　それが　本当のものなら
マルキ導入の自己批判
どうして　しないのよ　いつまでも
教師の頭に　論理があるなら
そして　それが　正しいものなら
マルキ導入の自己批判
どうして　しないのよ　いつまでも
だって　いつも　あなたは
黙っているだけ
そして　追求　はぐらかすだけ
}の部分　くり返し

その8．ある日必然（ある日突然替歌）

1．ある日トツ然　路線変わるの
あんなにおしゃべりしたいと言ってたのに
いつか　そんな時が来ると
ワタセには　ゲかっていたの

2．ある日マルキ　入れると決めた
ワタセはバリの封サの奥を
そこに何があるか　急に
知りたくて　マルキを入れる

3．ある日　ヒツ然　憎みあうのよ
師弟の関係が　その時変わる
いつか知らず　胸の中で
育ってた憎しみの炎

その9．マルキの大学（人形の家替歌）

顔も見たくないほど
学生にきらわれるなんて
とても信じられない　㊥を入れた今も
ほこりにまみれた「話し合い路線」の
ウソッパチ見抜かれて
自信をなくした　あの朝
私は　㊥にすべてをあずけた

その10．涙の大学（涙のミナト替歌）

これで　お別れなの　㊥ちゃん
とっても　つらいけど
またも　暴力学生あばれたら
なぐりにきて　ちょうだい
あなたのウデを　信じていた私
それが　へ　へ　証明されたのね
別れつきない朝　杉本町
もうすぐ「正常化」

あくびパルチザン＋文連団
狂気準備衆合祭
11月26日（火）12時半
スタートは教養芝生中央より
サテ、何が飛び出しますことやら
お代は見てのお帰りダヨ
テロとリンチとギャグがタップリ！

とき 11月25日（火）12時半より（雨天順延）ところ 死大全域

11/25